

## 研修報告書No. 4

研修先：大月町立国民健康保険大月病院  
宿毛市立沖の島へき診療所

### 《大月町立国保大月病院》

大月市町は高知の南西部に位置しており、人口 5000 人ほどの町です。大堂海岸の絶景や柏島でのマリンスポーツなどで有名な場所です。私は〇〇大学〇〇病院の研修プログラムの一環でこの大月町大月病院で 1 か月間研修を行いました。病院は上部消化管内視鏡、腹部エコー、CT といった施設をもち、入院病棟もあります。患者さんは年齢層が高く、大腿骨頸部骨折、褥瘡、肺炎、認知症といった高齢者に多い病気を始め、小児の予防接種、鎌での切創や交通事故での脱臼など、専門科として分けられている大学病院とはまた違った「初期診療としてなんでも診る」といったスタンスの内科から外科まで幅広いプライマリケアを研修することができました。

他に週に何日かは特別養護老人ホームや個人宅に往診があります。個人宅の往診は軽自動車です。やると通れるような狭い山道を 30 分ほど車で走ったところでようやく辿り着く 1 軒屋で、80 代、90 代の夫婦や一人暮らしの患者さんがほとんどで大変驚きました。年齢的に通院が困難であるために定期的なフォローや、脳梗塞後で寝たきりになってしまっているために往診を行っている患者さんなどが多かったです。定期的な診察に加え、訪問リハビリも行っており、施設ではなく自宅退院しながらも十分な医療も行えることを学びました。一方で、他院で脳梗塞後寝たきりの状態で自宅に退院し、90 代の妻と 2 人暮らしをしていた 80 代男性が深い褥瘡により入院していましたが、今後退院した場合受け入れ先がなく自宅退院となり、90 代の妻が介護を行うという話を聞いて驚愕しました。往診などの医療のシステムが幅広く働いていたら退院後褥瘡を作ることにはなかったであろうか、と考えるきっかけとなりました。

### 《沖の島へき地診療所》

沖の島は急勾配の場所に民家が立ち並んでおり、人口 200 人程の島です。今回沖の島にある沖の島へき地診療所で 3 日間研修をしました。高血圧、大動脈弁狭窄症、変形性膝関節症などの疾患で定期処方やフォローを受けに患者さんが来院していました。診療所ではエコー、内視鏡などの設備が整っていますが手術が必要な疾患や重度の心不全など高度な医療設備が必要な場合はドクターヘリで本土の病院に搬送することになっています。周囲は海ですが魚市場はないため、食料として魚、肉を買おうとすると本土から買いに行く必要があります。そのため島内での食事は炭水化物がメインとなり易く、肥満や高血圧、糖尿病など内科的疾患予防のためにも栄養指導を医師が診察のときに一緒に行っていたりもしました。他にも島内は険しい道が多く、脳梗塞、大腿骨頸部骨折などを患った場合、ほぼ元の生活には戻れず本土の施設で暮らすことになってしまうことが多いとのことでした。

## 《最後に》

どの病院でも入院患者さんの平均年齢が 80 代ほどであり、60 代以下がほとんどいないのが印象的でした。高知県は高齢者の割合が多く、「高知県の介護実情は東京の 10 年後の未来だ。」と指導医の先生が話されていたのが印象的でした。また、どの病院でも医師が少なく、診療科によっては西南地域では一病院しか高度医療が行えないといった科もありました。特に沖の島診療所は今月で常勤医師がいなくなるのことで地域医師不足を間近で見ることができました。最後に、大月病院の先生、看護師さん、職員の方々、一か月間お世話になりました、ありがとうございました。